

## 製品の取り扱い注意事項（ご使用前に必ずお読み下さい）

- 取扱説明書は、製品を破棄されるまで、お手元に保管して下さい。
- 取扱説明書に反した使用により損害が発生した場合、当社はその賠償の責を負いません。
- 本製品は、レース専用部品の為、一切クレームはお受けできません。

**⚠ 危険**（この表示を無視して、誤った取り扱いをされますと、人が死亡または重傷を負う危険性があります）

**⚠ 警告**（この表示を無視して、誤った取り扱いをされますと、人及び物的な損害が発生する危険性があります）

### ⚠ 危険

- 1、本製品及びプラグの取り扱いを間違えますと製品や車両を破損させるばかりでなく、事故の原因となりますので、全てお客様の責任において注意事項を厳守し、慎重にお取り扱い下さい。
- 2、ガソリン漏れがないか確認して下さい。引火すると爆発や火災の原因となります。
- 3、換気の悪い場所でのエンジン始動はしないで下さい。排気ガスにより酸素が欠乏し死にいたる場合もあります。必ず換気のよい場所でエンジンを始動して下さい。
- 4、本製品を装着後、エンジン性能に異常が無いことを確かめた上で、走行試験を行って下さい。
- 5、エンジンよりプラグを外して、エンジンアースでのスパーク点検はしないで下さい。感電や火災の原因となります。

### ⚠ 警告

- 1、本製品は、高電圧、高電流が流れますので分解及び改造はしないでください。感電や故障の原因となります。
- 2、火傷等を未然に防ぐ為、作業はエンジンが冷えてから行って下さい。
- 3、作業の安全を確保するために、確実に車体スタンドを掛け、メインスイッチは必ずOFFにし、バッテリーのマイナスターミナルを外して下さい。
- 4、事故防止の為、各コネクター、ボルト、ナットの緩みが無いか運行前点検時と合わせて点検して下さい。取り付け部にガタがある場合は速やかに増し締めを行って下さい。
- 5、本製品はレース専用部品です。公道での使用は行わないで下さい。
- 6、キャブレターやマフラーなどエンジンを車両の諸元と変更されている場合は、各部のセッティング作業を行って下さい。セッティングが合わない場合、焼き付きなどエンジンが破損する恐れがあります。
- 7、プラグは消耗品です。定期的な点検や交換が必要です。

# SPⅡ ハイパワーイグニッションコイル取扱説明書

SPⅡ ハイパワーコイルは、2次電圧4万ボルト、火花放電電流はノーマルの2～3倍を発揮する高性能イグニッションコイルです。

鉄心は閉磁路構造(環状)になっており、強力な磁束をすばやく発生させ、放電電流、放電時間を大幅に増加させています。

この強力な火花放電によって全回転域に渡って燃焼を改善させ、トルクアップします。

特に、スロットルオープン時の過度期におけるレスポンス、弾むようなトルク感、スムーズな吹き上がりは他のパーツ交換では味わえないものです。

また、始動性の向上、アイドリングの安定も大きな特徴の一つです。

SPⅡ ハイパワーコイルは、CDI点火、フルトラ点火、ポイント点火どの方式でも使用可能です。以下の方法でご使用下さい。

## 1、**CDI(容量放電)点火車、及びフライホイールマグネト式ポイント点火車に装着の場合** \*

ノーマルの1次コイル抵抗値には関係ありません。

SPⅡ ハイパワーコイルの1次コネクタ**赤色線を車体アース側、黄色線をCDIユニット側、又はポイント側**に接続してご使用下さい。

## 2、**フルトラ(誘導放電)点火車、バッテリー式ポイント点火車に装着の場合** \*

ノーマルイグニッションコイルの1次コイル抵抗値の許容範囲内であることを確認してご使用下さい。

SPⅡ ハイパワーコイルの1次コイル抵抗値は、1P:1.2Ω、2P:0.8Ωです。

(ノーマルの1次コイル抵抗値が大きい場合は、電流アンプ付の「SPⅡ パワーコイルキット」をご使用下さい。そのまま使用するとノーマルイグナイタ、ポイントの焼損の恐れがあります)

SPⅡ ハイパワーコイルの1次コイル赤色線を電源側(コイルを外し、メインスイッチをオンにするとバッテリー電圧が出る)、黄色線をイグナイタ(又はポイント)側に接続してご使用下さい。

## 3、**車体への取付** \*

ボルト締め、金属バンド、タイラップ(太い)などでしっかりフレームなどに固定して下さい。

(コイル本体のフレームアースは特に必要ではありません)

プラグコード側は非常に高電圧なので、水分などが浸入しないよう特にご注意下さい。

**⚠** メインスイッチ ON、かつエンジン停止状態でイグニッションコイルに常時電流が流れるタイプ(フルトラ点火の一部車種、及びバッテリー式ポイント点火車)は、前記の状態が続くとコイルが発熱破損します。電流アンプ(Cタイプ)付の「SPⅡ パワーコイルキット」を使用して下さい。

**⚠** 装着後、プラグの焼け具合、エンジン音などに注意し、必要に応じてキャブレターセッティングなどを行ってください。

**⚠** 本製品は汎用品です。使用車種によっては電気的特性が合わない場合があります。

## SP II プラグコードコネクタ(1P用)装着方法

- \* プラグコード外径は7mmが標準です。それよりコードが太い場合はコードを加工して下さい。
- \* リーク防止のため、プラグコードは新品、またはそれに近い良品を使用して下さい。



1、プラグコード芯線を15mm剥きだす。



2、ブーツをコードに被せ芯線を折り返す。



3、コネクタ金具を被せ、後部をカシめる。カシメ工具がないときは、ラジオペンチ、プライヤなどでなるべく小さく丸める。金具の先端はやや開いておく。



4、コネクタ金具が見えなくなるまで(コイル穴底部まで)コイルに押し込む。



5、ブーツを奥まで被せる。

### \* 芯線について(1P、2P共通)

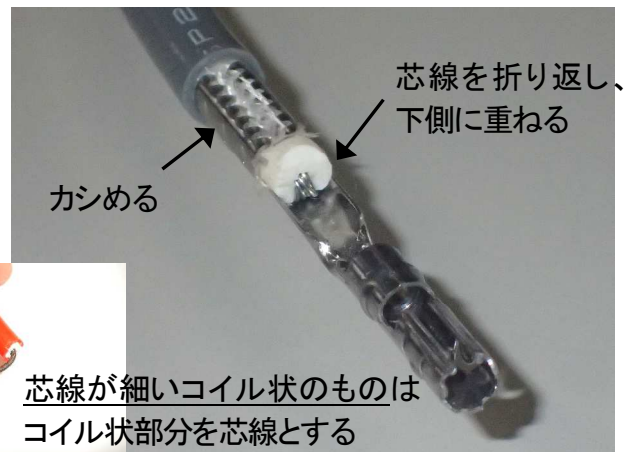
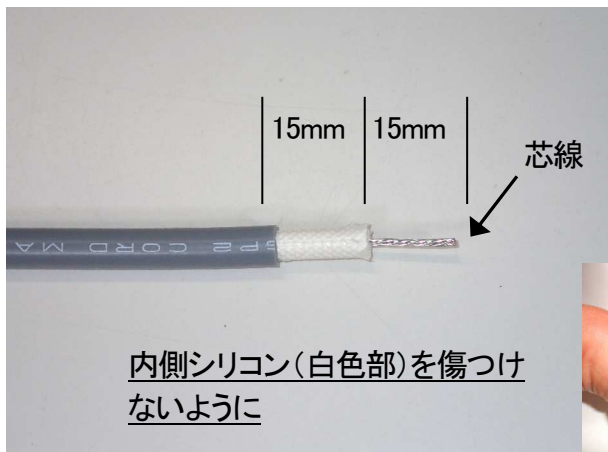
芯線が銅線数本よりのもの(上図)はそれを芯線として折り返す。

細い銅線が小さくコイル状になっているものは、コイル状部分全体を芯線として折り返す。



## プラグコードコネクタ装着方法(2Pコイル用)

プラグコード外径は7mmが標準です。8mm以上の場合、やや窮屈なのでブーツ/コードに多めに潤滑材を塗布する。コイルに被さる部分にはなるべく塗布しない。

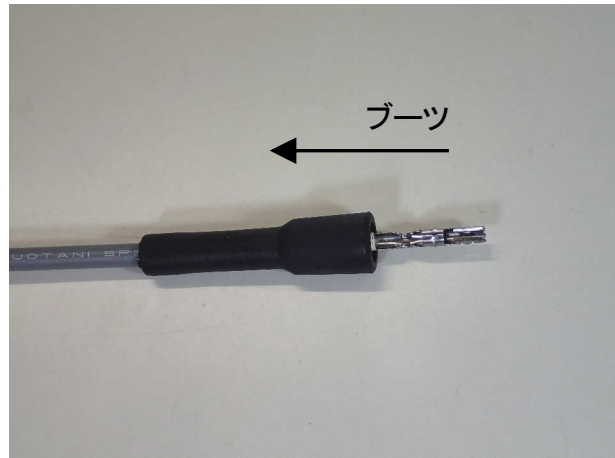


1、プラグコード芯線を15mm剥きだす。  
コード外側を15mm剥く(内側の直径は約5mm)。

2、コネクタ金具を圧着工具(ない場合はプライヤー可)でカシめる。



3、コード、ブーツに潤滑材を多めに塗布する。



4、ブーツを被せる。



5、コネクタ金具をコイルへ押し込む。  
コードを曲げる必要がある場合は、コネクタのくびれた箇所を曲げる(15°程度まで)。



6、ブーツを奥まで被せる。ここまで潤滑剤が乾かない内にすばやく行う。